

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	花うさぎ p きっず		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 18日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 18日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	パソコンを使った学習支援やタブレットでのプログラミング療育など、幅広く興味のある活動を取り入れ通所が楽しくなる療育を行っている。	パソコンのすらら学習では、キャラクターと対話しながら、理解度にあったペースで進めることができている。 オフィス基礎学習により、パソコンの扱いに慣れ、自己表現する機会を拡大していく。 プログラミング療育を通じ、「問題解決できる人」「表現できる人」「想像できる人」を育てていく。	勉強がわからないことで不登校にならないよう、学習ペースを学校の内容にリンクさせて支援する。 自信をもっていろんな活動に参加できるようになり、自己肯定感を育むことを意識して支援していく。
2	自立に向けた作業を取り入れることで、自分で取り組むことの意識を深め、自分でできることを増やしていく。	将来の目標を視野に入れて、高学年以上の利用者を主に対象として、パソコンのOfficekisoコースを導入し支援している。 見通しをもって自分で行動できるよう視覚支援などで分かりやすくし、自立に向けて取り組んでいる。	成功体験を積みながら自信を付ける。 取り組む内容や意味を理解して行えるようになり、自発的に取り組めるように仲介する。
3	他の利用者と関わりながら非認知能力を養えるような活動や遊びを取り入れる。	活動の目的や目標を意識して取り組めるよう、掲示物やボードを活用し、都度相互確認できるよう工夫している。 活動やルール遊びを通じて、集団行動や他者への気持ちを考えて行動すること、忍耐力、協力、目標に向かってやり抜く力、自制心、感謝する心、他者に相談できる力等、生きていく力を育む。	自分の課題を把握して、状況に応じてどのように行動すればよいかなど、考えて行動できるように支援する。 できた部分の成果が見えにくい為、評価していることをわかりやすく伝え、能力の定着を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職務に必要な知識、関連業務に関する知識について、従業者のスキルアップが必要である。	いろんな特性の利用者が増えており、職員のスキルアップが求められている。一人ひとりが利用者との関わり方に自信をもって取り組めるようになり、色々なスキルやアプローチの方法等を身に付け、あらゆる場面もどの職員も対応できるように取り組む必要がある。	研修や勉強会、事業所間の交流会などを行い、より障害の特性などの理解を深め、利用者や保護者への対応がより適切なものとなるよう努める。
2	一人ひとりの特性に応じた活動内容や環境整備、より専門的な療育を強化していくこと。	事業所内に複数の個室があり、利用者の一人が不穏な状況になった場合に落ち着ける場所の確保はできている。 学習ゾーンはパーティションで個別に区切られているがオープンスペースのため、集中力にかけてうまく取り組めない場合がある。専門療育は専用室で実施している。	個室や学習ゾーンなど視覚的には集中できる環境があるが、音の面で対応が難しい場合があるので、気分転換に外を散歩するなどの対応を検討する。 取り組みやすい環境の調整や、本人がやる気がでる課題への変更を検討するなどの工夫が必要である。
3	外出活動や社会科見学等の活動数を増やし、地域連携の取り組みを検討していく。	平日は療育時間が短いので、通常の課題を優先し、外出は近くの公園での外遊びに限定。土曜日・祝日、学校の長期休暇期間は出来る限り外出活動を組み入れ、施設内とは異なる環境での活動により、療育の幅を広げている。	希望の多い外出活動については、平日は療育時間が短いので土曜日・祝日及び長期休みに行う。 利用者が落ち着いて行動することができるよう事前学習を行い、職員に対してはシミュレーションによる行動把握等の準備を行う。